

広陵



第42号 2013.6.20

神奈川県立秦野高等学校同窓会会報

《思い出のシリーズ》 No.42



女子第16回全国高等学校駅伝競走大会終了後の報告会 写真提供：能條剛 高17回
(平成16年12月26日開催 於：京都・西京極陸上競技場)
神奈川県の高등학교を代表し本校2度目の全国大会に出場。47都道府県中26位の1時間
11分56秒のタイムでゴールした。当日は早野校長をはじめ、多くの教職員、保護者、卒
業生が応援に駆けつけ健闘をねぎらった。

同窓会会報第42号目次

表紙 題字 宮本 信義 (中5回)
スケッチ「秦野峠」

横溝 英一 (中20回)

平成24年度事業報告・決算報告……………2

平成25年度事業計画(案)・予算(案)……………3

ごあいさつ 同窓会会長・畑野公保

校長・時乗洋昭……………4

支部だより……………5

秦中・秦高在職中の思い出……………7

広畑が丘空晴れて秦中・秦高に想う……………8

同期会だより……………10

第7回青春かながわ校歌祭……………11

特別寄稿 貞松 篤……………12

同窓会委員会の組織……………13

部活動の記録……………14

全国大会派遣支援活動報告……………15

母校2012年度進路状況……………16

叙勲・春の異動・物故者など……………18

総会へのお誘い

同窓会長 畑野公保

平成25年度総会は、伊勢原市民文化会館で伊勢原支部の皆様にご設営していただきました。会員各位のご参加をお願いします。

平成25年度 秦野高等学校同窓会

～ 総会のご案内～

日時 6月30日(日)
場所 伊勢原市民文化会館
伊勢原市田中348
TEL (0463) 92-2300

総会日程

総会日程

P.M.1:30 受付

2:00 総会

■ 24年度事業報告及び決算報告

■ 25年度事業計画及び予算審議

■ その他

* 総会終了 懇親会

会費4,000円(当日納入)

■ アトラクション(予定)

会場へのご案内

バス：小田急線伊勢原駅北口2番乗り場

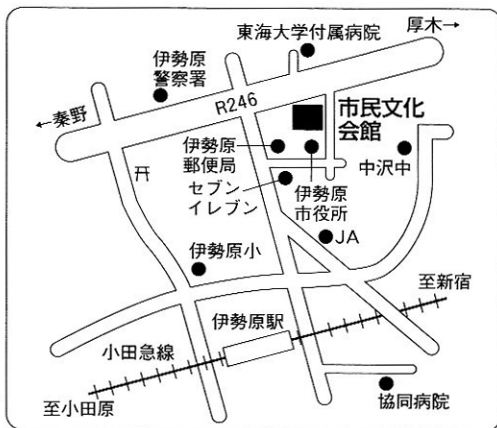
東海大学病院経由愛甲石田駅行

「伊勢原市役所北口」下車 12時30分発 13時10分発

南口4番乗り場 東海大学病院行「伊勢原市役所北口」下車

12時50分発 13時05分発 13時20分発

徒歩：小田急線伊勢原駅から約10分



県立秦野高等学校同窓会本部役員名簿

【顧問】	柳川 一郎(高1) 秦野		
【会長】	畑野 公保(高7) 伊勢原		
【副会長】	青木 利之(高4) 秦野	苅籠 光男(高16) 伊勢原	
	関 恒久(高19) 平塚	石田 邦男(高7) 小田原	
	大庭 進(高7) 南足柄	長沢 孝治(高13) 東京	
【支部長】	榎本 圭治(高2) 秦野	瀬戸洋二郎(高15) 伊勢原	
	出縄 高昭(高19) 平塚	柏木 勝(高9) 小田原	
	関 操(高4) 南足柄	飯尾 美甫(高8) 東京	
【会計】	能條 剛(高17) 伊勢原	久保寺富男(高11) 秦野	
【会計監査】	多田 重雄(高10) 伊勢原	飯田 重明(高16) 平塚	
【校内幹事】	高田万友美 相原芳夫(高23)		
【事務局】	〈局長〉田中信一(高18) 伊勢原	〈次長〉高梨 剛(高34) 伊勢原	
	〈書記〉瀬戸紀彰(高44) 伊勢原		
	木村菜花(高57) 伊勢原	亀井ゆう子(高57) 伊勢原	

平成24年度決算報告

◎歳入の部

自 平成24年 4月1日
至 平成25年 3月31日

項 目	24年度予算額	24年度決算額	増 減	摘 要
前期繰越金	1,913,911	1,913,911	0	
終身会費	3,500,000	3,995,455	495,455	新入会員(343名)、 本籍会員(57名)
預金利息	5,000	4,752	△248	横浜銀行、スルガ銀行
繰入金	3,000,000	3,000,000	0	特別会計積立金を取り崩し 繰入
雑収入	0	0	0	
合 計	8,418,911	8,914,118	495,207	

◎歳出の部

項 目	24年度予算額	24年度決算額	増 減	摘 要
会議費	320,000	317,772	△2,228	
総会費	250,000	250,000	0	総会開催諸経費
役員会議費	70,000	67,772	△2,228	会議費(お茶代)
事業費	3,390,000	3,285,326	△104,674	
支部育成費・活動費	240,000	240,000	0	6支部
同期会育成費	100,000	60,000	△40,000	6期学年
在校生活動振興費	700,000	700,000	0	
吹奏楽部助成費	100,000	100,000	0	
会報発行費	1,900,000	1,850,108	△49,892	広陵41号発行 (印刷、発送料)
校歌祭参加費	250,000	211,627	△38,373	参加費、バス借上 代他
ホームページ運営費	100,000	123,591	23,591	ホームページ運営 費、機材購入
慶弔費	100,000	25,000	△75,000	
事務費	200,000	267,277	67,277	
事務局費	150,000	235,423	85,413	総会案内(タウンニ ュース)事務消耗品代
通信費	40,000	25,500	△14,500	切手・ハガキ代
印刷費	10,000	6,364	△3,636	会議資料印刷、 コピー代
予備費	4,408,911	5,018,743	609,832	
合 計	8,418,911	8,914,118	495,207	

同窓会積立金残高 31,500,000

平成24年度秦野高等学校同窓会の会計収支決算について、関係帳簿及び書類等を審査した結果、正確・公正に処理されていることを認めます。

平成25年 4月12日
会計監査 飯田重明
会計監査 多田重雄

平成24年度事業報告

1 総 会

● 7月1日(日)
秦野市商工会議所

2 役員会

- 4月14日 本部役員会
- 4月28日 本部役員会
- 5月26日 本部役員会
- 5月28日 会計監査
- 6月2日 本部役員会
- 6月9日 幹事会
- 6月24日 本部役員会
- 8月11日 本部役員会
- 8月26日 本部役員会
- 9月30日 本部役員会
- 11月14日 本部役員会
- 1月27日 本部役員会
- 3月3日 本部役員会
- 3月30日 本部役員会

3 会報「広陵」41号発行・配布

4 支部育成 6支部に活動費を助成

5 同期会育成 6同期会に祝金贈呈

6 第7青春かながわ校歌祭に参加
期日 11月25日

会場 かながわ芸術劇場

参加者 同窓会員・生徒・先生計52名参加

合唱曲目 校歌・第一応援歌
夕日(葛原しげる作詞)

7 在校生への活動支援

● 校内マラソン大会、湯呑茶碗贈呈

● 吹奏楽部助成

● 県・関東・全国大会出場支援

8 伊勢原・秦野地区同窓会連絡協議
会に参加

期日 7月21日 会場 伊勢原「アマダホール」

参加者 秦野・秦野首屋・秦野総合・
伊勢原・伊志田の各校同窓会役員・
校長 38名参加

各校同窓会の現状報告と意見交換と懇
親会

左記のとおり報告します。

平成25年 6月30日

会長 畑野 公保
会計 久保寺富男
会計 能條 剛

平成25年度予算(案)

◎歳入の部

自 平成25年4月1日
至 平成26年3月31日

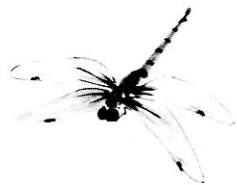
項目	24年度決算額	25年度予算額	増 減	摘 要
前期繰越金	1,913,911	5,018,743	3,104,832	
終身会費	3,995,455	4,000,000	4,545	新会員355名、 既存会員45名
預金利息	4,752	4,000	△762	利息
繰入金	3,000,000	0	△3,000,000	
雑収入	0	0	0	
合 計	8,914,118	9,022,743	108,625	

◎歳出の部

項目	24年度決算額	25年度予算額	増 減	摘 要
会議費	317,772	330,000	12,228	
総会費	250,000	250,000	0	総会開催諸経費
役員会議費	67,772	80,000	12,228	会議費(お茶代)
事業費	3,285,326	3,320,000	34,674	
支部育成費	240,000	240,000	0	6支部
同期会育成費	60,000	80,000	20,000	1期に10,000円助成
在校生活動振興費	700,000	700,000	△100,000	部活動、 教育活動
吹奏楽部助成費	100,000			
会報発行費	1,850,108	1,930,000	79,892	会員増
校歌祭参加費	211,627	23,000	18,373	参加費、バス借上代等
ホームページ運営費	123,591	140,000	16,409	ホームページ運営費
慶弔費	25,000	50,000	25,000	
事務費	267,277	190,000	△77,277	
事務局費	235,413	150,000	△85,413	事務消耗品代
通信費	25,500	30,000	4,500	切手・ハガキ代
印刷費	6,364	10,000	3,636	会議資料印刷、コピー代
予備費	5,018,743	5,132,743	114,000	
合 計	8,914,118	9,022,743	108,625	

平成25年度事業計画(案)

- 1 総会・幹事会・役員会・各種委員会の開催
- 2 会報「広陵」第42号の発行・配布
- 3 第8回「青春ながわ校歌祭」に参加
平成25年9月28日(土)
県立青少年センター
- 4 支部育成と同期会育成
- 5 在校生への活動支援と交流活動費助成・全国大会等への派遣費助成・学校事業への参加
- 6 秦野・伊勢原地区同窓会連絡協議会への参加



同窓会積立金残高 31,500,000円

表紙スケッチ
秦野峠

横溝英一(中20回)

私は「広陵」の表紙を描くために秦野近郊を毎年あちこちスケッチして来たのだったが、その時、特に強く印象に残る場所を見つけたのが、この秦野峠だった。寄(やどり)の集落を西に山を越えるると丹沢湖が見え、その向こうに富士山が大きく聳えている。1998年頃、ここに林道ができたが、車輛通行禁止のゲートを自転車で行き抜ける以外に、この雄大な景色を眺めることはできない。勿体ないことだと思っ。

* 横溝英一氏には、平成元年第18号から表紙絵をお願いしました。25年間の長きにわたる大変お世話になりました。今号をもちまして氏のご意向もあり、最終号になりました。ありがとうございました。

ごあいさつ

一年をふり返って

同窓会会長 畑野公保



う、心掛けております。

新緑の大山丹沢連峰から心地よい風が吹いてくる季節となりました。同窓会の皆様にはご健勝にてご活躍の事と推察致します。さて、月日の経つのは早いもので、新体制が発足してから一年が過ぎようとしております。すでにご案内のように新たな同窓会「広陵会」会則のもと、各部会の副会長（6名）を中心にそれぞれの委員会にて山積する諸問題の検討を重ねています。また平成25年度事業計画案や予算案の作製についても、項目ごとに着実に遂行できるよ

う、心掛けております。今年3月1日に第65回卒業式が行われ、357名が巣立ち、同窓会の新会員として加入しました。本校の長い歴史を見ますと、現在までの高等学校卒業生は2万2千193名と記されています。(第1回卒昭和24年3月3日)また前身の旧制中学校卒業生(第1回卒昭和4年3月8日)を含めるとその総数は実に2万4千236名に上ります。そして3年後には創立90周年を迎えます。同窓会と致しまでもこの記念行事に少しでもお役に立てるよう協力したいと思っております。会員諸氏のご理解あるご協力とご支援を切にお願いする次第です。在校生諸君も広畑が丘の澄

みきった空気を十分に吸って勉強やクラブ活動に熱心に励んでおり、質実剛健の精神が自然と培われているように感じております。

終りに、平成25年度の総会

第68期358名が入学しました



校長 時乗 洋昭

のご臨席を賜り、第68期358名の入学式を執り行いました。

同窓会の皆様におかれましては日ごろより本校の教育活動へのご協力とご支援ありがとうございます。おかげさをもちまして平成24年度も陸上部を初めとして、多くの部が関東大会や全国大会に参加し優秀な成績を残すことができました。

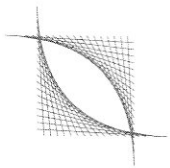
さて、4月5日に前田PTA A会長様、畑野同窓会会長様

今年度の入学生は、新たな入学選抜制度の下での最初の入学生ですが、これまでの生徒と同様に、勉学にそして部活動に非常に高い意欲と志を持った優秀な生徒たちです。また、今年度より学力向上進学重点校として新たな3ヵ年計画が始まります。

今年度の入学生は、正に3ヵ年計画の成果が問われる学年となります。

ご存じのとおり、学校は生徒が持つ可能性を広げ、その能力を最大限に引き出すことを使命としております。そのため、本校は、学力向上進学校としては珍しく、愚直に部活動の向上に力を入れております。

これに加え、3ヵ年計画では、高いモチベーションを持って勉学に取り組ませるための教育活動をこれまで以上に実践することとしております。勉学と部活動を共に鍛え伸ばすという「てつぺんを指す」教育活動の実践を通して、生徒が持つ可能性を一層輝かせたいと考えておりますので、引き続きご協力とご支援を賜りますようお願いいたします。



支部だより

秦野支部

榎本圭治（高2回）

秦野支部結成の動機は、母校創立50周年記念事業（昭和51年10月30日記念式典開催）を実施するにあたり、昭和49年2月から支部結成の気運が有志によって高められ、9月の準備期間後、昭和49年11月9日支部会員（準備委員）140名の参加で発足しました。その時の同窓会員数は2千6百名、現在は約5千2百名ほどです。

支部組織は旧町村別の本町・南・東・北・大根・西の6地区に別れ、地区毎に地区長、副地区長、委員135名によって運営されています。

支部事業は、①会報「広陵」

の会員への配布②会員の移動の把握③一日行程の貸し切りバスによる県内外の地域文化、芸能、産業等の施設見学と自然環境の探索と会員の親睦を実施しています。今後の企画としては、新入会員の歓迎事業、学校行事への参加（出演、出品、出演、見学）が話題に上っています。必要な経費は本部からの「広陵」配布の郵送料を支部・地区運営費として充当し、個人参加費を充てています。

同窓会組織改革に伴い、支部の体制も入れ替わりました。例年の行事としては支部総会、それに関わる年3〜4回の親睦会をこなしています。少数なるが故の悩みも多くあります。最大の問題は、高4を最後に学区制が施行され、足柄地区は学区外となったために、学区制が撤廃されるまでの50年間の卒業生は54人しかいないことです。

南足柄支部

関 操（高4回）

神奈川県西部、静岡県との県境に接する南足柄市。秦高時代通学に2時間近くもかかる所でした。だから支部と云っても同窓生全体の1%にも満たない小支部です。昨年

各学年0〜2人、0人の学年が18年もあります。同級生がいらないから横のつながりが全くなく、現在支部会員167名中、約100人は学区制撤廃以降の新卒者です。

現会員で行事に1回以上の出席者を数えると20名弱。その中から本部役員、支部役員を割り当てると余裕はありません。これから数年後には各学年が1人か2人、または0人。これからはもっと誘い合

つて、参加率を高める必要があります。

平塚支部

出縄高昭（高19回）

昨年6月16日、ホテルサンガーデンで平塚支部の総会が盛大に開催されました。

議事の部では、同窓会会則に準じて「平塚支部規約改正案」の会員資格について、平塚支部では戦時中の混乱の中での卒業が困難だった同窓生や繰り上げて卒業に準じた同窓生を、徒に排除すべきではないという意見が多く出され、慎重に審議した結果、「会員資格」については改正しないことにしました。その他の案については満場一致で了承されました。

同窓会本部については、予算案が収入を上回る経費を計上している点や在校生の支援をするのもっともだが、同

窓会への支援も強化すべきだという意見が、要望として提案されました。議事の部終了後は、出席者26人が在籍中の様々な思い出を語り、先輩後輩の輪が大きく広がりました。なお、今回から大磯・二宮地区の同窓生が初めて参加されました。



小田原支部

額田幸也 (高5回)

本年4月、恒例の支部総会を開催しました。今までの杉崎幸正支部長(高2回)の任期満了に伴い、柏木勝新支部長(高9回)選出のもと、新役員でスタートしました。本年は5年目の節目に当たり、今までの課題を一つひとつ解決する具体的取り組みを確認しました。

5月には、箱根湯本で総会の反省と会員相互の親睦を図って1泊しました。年末には忘年会と年度末の反省を行い、最近の全県一区の学区制に伴う小田原方面からの秦高志願者増加と、卒業同窓生の増加による小田原支部の充実について話し合いました。また、小田原に住む同窓生の皆さんが、いつでも母校を思い出すように、「広畑が丘小田原」と

いう意味の色紙を作り(後掲)、額に入れ披露しました。

毎年4月に行われる総会には、近隣の足柄上・下をはじめ、小田原に関係された全ての同窓生の皆さん、是非参加され、懐かしい秦高時代を語りましょう。

連絡先：石田邦雄(高7回)
0465-47-3642
小田原支部シンボル色紙

広畑が丘

県立秦野高校
同窓会小田原支部
会期より

伊勢原支部

瀬戸洋四郎(高15回)

当支部の唯一の行事であります研修・親睦を目的としたバス旅行も、早いもので10回

目を迎えました。

11月18日に群馬県にあります「吹割の滝」と紅葉見物、リング狩り等を行いました。

当日は天候にも恵まれ、高1回生の方から高42回生までの12世代から、また小田原、厚木、秦野方面から、更には女性の方々の参加もいただき、楽しいバス旅行の一日でした。

特に、年齢差はあっても同窓生であるが故、共通の話題も多くあり、すぐにうち解けて和気あいあいの楽しいひとときを過ごすことができ、とても強い絆を感じました。

最後になりましたが、当支部に力強いスタッフが加入してくれました。昨年の伊勢原市議会議員補欠選挙で、見事に当選された高37回の歯科医師・萩原鉄也氏、高42回の橋田夏枝氏であります。両氏の今後のますますのご活躍を心待ち申し上げます。

今年の総会は、伊勢原支部が担当です。多くの皆様のお越しを心からお待ちしています。お待ちしております。

東京支部

長沢孝治(高13回)

東京支部は、他の支部と異なり、2年に1度の会員相互の親睦を図る総会(懇親会)が唯一の活動です。

現在、飯尾美甫支部長、矢代隆助副支部長とも病氣療養中で、活動ができずおります。一日も早く快復および活動の再開を願っております。



同窓会「広陵会」ホームページのご案内

秦野高校同窓会「広陵会」のホームページでは、会員の皆様のご意見を募集中です。ご住所等の変更手続きもホームページからできますので、是非ご利用ください。最近の出来事等もタイムリーに発信していますので、「お気に入り」に追加して、毎日ご覧ください。

URL→<http://www.koryokai.info/>

秦中・秦高在職中の想い出

秦野は遠く なりにけり

松崎三郎（数学）

（昭和37年～51年）

炎暑に耐える夏期講習

暑い、風も通らない教室、黒板に向かって問題を解く生徒、チョークの音が走る、炎暑に耐えて夏期講習は続く、目指すは半年後の大学入試だ。

「暑さなんかは負けてはいられない」室内には生徒たちの意気込みが漲っていた。

昭和43年4月、新入生を迎えて8学級の学年が発足した。目標の一つに「多くの生徒が希望の大学へ進学できるような育成すること」を掲げ、そのための教育計画を立て、かつ着実に実践していった。夏期講習もその実践計画の一齣で

ある。

それは、現在の秦野高校が「学力向上進学重点校」として日々活動が続けている姿と変わらない。

ところで、この3年間の教育の成果はどうであったか。それは、すでに還暦を迎えた卒業生一人ひとりの胸中に問うことにしよう。

山陰山陽を巡る修学旅行

昭和44年秋、鳥取、島根、山口、広島各県の名所、旧蹟、記念碑、景観などを訪ねる修学旅行を実施した。

ところで、当時2年生であった皆さんは次の歌を憶えているでしょうか。

♪何の因果で貝殻漕ぎならうた、カワイヤノ、カワイヤノ、色は黒うなる身はやせろ…。

山陰道を行くバスの中、ガイドさんが歌う鳥取民謡の貝殻漕ぎを、みんなで一節ずつ習い、また一人ずつ歌っては、時に調子外れの歌声に爆笑が起き車内が沸いた。

快適な山陰のバスの旅を鳥根県で終え、別れるときにガイドが涙ぐんでいた。

車中でのガイドの説明に聞き入り、民謡練習を楽しく過ごしたことに感謝して…みんなも握手でそれに応えていた。心に残る別れでした。

それから40有余年、米寿を迎えた今、遠い秦野高校の姿に思いを馳せています。

ふるさと 秦高での5年間

越水 清（保体）

（平成11年～平成16年）

平成11年、母校秦高に着任した直後の入学式に、吹奏楽部によって新入生歓迎の校歌

が演奏されました。懐かしく力強い前奏を耳にしたと同時に目頭から熱いものが溢れ出しました。教師生活残すところ5年という時に体育教師を志した出発点である母校への着任は私にとってふるさとへ帰ってきたのだというはかりしれない感慨でした。

勤務した5年間、礼儀正しく、勉強に部活に実に活力的に取り組み頼もしい生徒達と充実した教師生活を母校でおくることができました。心をしっかりと感謝しています。

教師生活もあと3年という時に新入学年の担任を希望しました。生徒達の卒業と一緒に私も卒業したかったからです。40年以上の世代感覚の違いを心配しましたが全くの取り越し苦労でした。素直で明るく高校生活を懸命に生きる生徒達のおかげで38年間の教師生活を秦高でピリオドを打

つことができました。部活動顧問はOBでもあり体育教師へのきつかけとなった陸上部の担当でした。目標に向かって努力を惜しまぬ多くの部員から私は沢山のことを学びました。

平成16年、担任学年の卒業と一緒に私も退職しましたが、その後、3年間、陸上部の嘱託コーチを仰せつかり全国高校女子駅伝に内藤篤史先生のアシスタントとして都大路に引率させて頂いたことなども良い思い出です。秦高在職中出会いました生徒、教職員、保護者、同窓生の皆さんありがとうございました。



空晴れて 丘が畑が 秦中・秦高に想う

旧制中学の 想い出

鈴木勲二(中20回)

私は昭和に入ってから昭和恐慌や経済不況の頃に生まれ、日華事変の年に小学校に入學し、日米開戦後の戦時下の中学生生活だった為、「一億一心、火の玉だ」当時の国策もあって、教練、勤労奉仕の連続であった。敗戦直前の3年6月

から横浜の工場動員の地下防空壕で玉音放送(無条件降伏の受諾)を聴いた。

従って旧制中学時代は「欲しがりません勝つまでは」で我慢したこの時代は、日本全体が一つの目標に進んでいた頃、すべてが貧しく、乏しい時代でもあった。しかし両親をはじめ、身内など人生の先輩から、誠実、正直、勤勉などの人生哲学を教えられて育った。その意味において、中学時代の想い出は、勉学主体の学校生活や、スポーツを楽しむという雰囲気には、程遠く、在学中の修学旅行の話題

すらない時代であった。学年主体の行事を強いて挙げれば、卒業する年の秋の一日旅行であった。

奥湯河原から箱根十国峠へかけての徒歩による遠足だった。その頃、佐分利信、木暮美千代共演の「花の素顔」と

いう映画が封切られ、その主題歌が流行っていた。そんな歌を口ずさみながら、私たちは十国峠付近の日金山の山頂を目指した。

箱根路をわが越えければ伊豆の海や、沖の小島に、波のしらたつ、山頂に源実朝の「山塊集」の歌の一節の歌碑があり、その碑の前で撮った記念写真が、中学時代の唯一の懐かしい想い出として、今でもアルバムに残っている。

秦中・秦高の 想い出

吉川和夫(高4回)

秦高第4回生は6年間を、そのうち4年間は最下級生として、広畑が丘に通学したと言くと、理解し難い人が多いだろう。終戦の翌年、我々が旧制秦野中学に入學した後、学制改革が実施され、旧制中学が高校に昇格した。1、2

年生は臨時処置として設立された高校併設中学に移った。下級生がおらず、共学でもない、新旧学制の境目に存在した特別の学年であった。

中学時代の想い出も多い。食糧難で、弁当不要の半日授業の日があった。製本が済んでない教科書が配布された。運動会では裸足で走った等々。

高校での想い出も多い。体操の時間の長距離走で、遅い人にペースを合わせ、大集団を作って走り、叱られた。進学指導は特に無く、自分で決めた大学を受験した。等々。私は大学入学直後、進路に迷いを生じたが、偶々駅で会ったI先生に世界は広いぞと説明され、背中を押された結果がサラリーマン生活の30年を国外にて過ごした変種となつた。今や世界は狭くなり、パンコクでは現地でOB会を開ける高校さえある。国外指

向のDNAが強いのだろう。振り返れば、感受性の強い時期に6年間を同じメンバーと先生とで過ごしたために強い絆が出来たと思う。その結果、今でも毎月、同級生の集いがある。酒を飲むだけでなく、順番に自分が歩んだ道を語り、談論風発の会が15年も続いている。同級生を中心として同人誌もある。新しい良き想い出も加わる。多くの先生と同級生に感謝したい。

小さな抵抗

西川瑞枝(高14回)

私が入学したのは昭和34年4月。所得倍増が叫ばれテレビや数々の電化製品が普及し、映画は大人の匂いがある石原裕次郎、小林旭、テレビでは橋幸夫、舟木一夫、坂本九等同世代が活躍をし、同じ画面に安保闘争が報道されるとい

うアンバランスな時代でした。そんな時に髪型は坊主刈りという校則に反発するのは当然の成り行きだったと思います。2年生の時の生徒会で「髪を伸ばさせて下さい」とお願いしましたが却下。

それに抵抗して雨天体操場に座り込み、授業放棄してその間2時間、職員会議の結果、髪を伸ばすことを許可され、雨天体操場は喜びの拍手と歓声で割れるばかり。私達女子は関係ないのに参加したと後程お叱りを受けました。

あれから50余年を経て同期会を開くと、あんなにこだわった髪の毛も薄くなり白髪も多くなりましたが、懐かしい顔と声はあの頃に戻してくれます。

私達の頃は女子が少なく、体育の時間も部活動も参加出来ず応援に回っていました。が、全国大会出場的女子駅伝

をはじめ、女子が様々な分野で活躍しているのを見ると元気づけられます。

これからも後輩の皆様、学間にスポーツに力をそそぎ、私達に沢山の喜びと楽しみを下さい。

充実した 野球生活

谷口嘉信（高24回）

幼い頃から野球を始め、今年で60歳になっても還暦野球チームに所属し、まさに野球とともに歩んできた人生といっても過言ではありません。特に秦高での野球生活があったからこそ、社会人になり辛いことがあっても、頑張れたと度々思うことがあります。

私が入学した当時は、1年先輩が少なく、1年の秋季大会から試合に出場する機会に恵まれました。

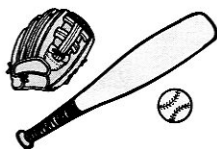
2年の春の県大会では、選

抜高校野球に出場し、県大会では優勝候補の筆頭であった東海相模を2対1で破り、決勝戦まで進出しました。その後の西湘地区（宇田川杯）第1回大会で優勝し、夏の大会は第1シード校として出場しましたが、因縁の東海相模との対戦で敗れ、その東海相模は全国優勝を成し遂げました。翌年は桐蔭学園が全国優勝し、神奈川県は野球王国と言われた時代でした。

2年の秋季県大会は準決勝まで進出し、また、翌年の夏は全国優勝した桐蔭学園に肉薄するなど、強豪校の一つに挙げられるようになりました。翌年、昭和47年の夏の大会で1年後輩が決勝まで進出し、甲子園出場まであと一歩という快挙でした。

休日ではなく練習は長時間にわたり、辛いと思うことは度々ありましたが、好成績が残

せ、また、多くの仲間に出会えた充実した3年間でした。



随 想

山岸信雄先生 のこと

柳川三郎（中17回）

昭和29年秋、母は急病に臥した。

長野高校でドイツ語と英語を教えていた私は、母の看病のため、長野を引き払って秦野に帰って来なければならなかった。

問題は働き口である。余りにも急なことなので専任教員

の働き口などあろう筈もない。窮状を見かねてか、母校は私を英語の非常勤講師として採用してくれた。手掛りを得た思いで心強かった。

そんな折、真に幸運なことに静岡県三島市の日本大学三島教養部に、ドイツ語の専任教員として迎えられることとなった。しかし新年度のスタート直前のことである。どこも時間割はあらかた固まっている。うまく両方の勤めをこなすことができるか不安であった。

幸い母校では恩師の山岸信雄先生が教務の仕事をしておられた。先生は私のために、いろいろと時間割のやりくりをして下さった。

お蔭で私は、無事に両方の勤めを全うすることができたのである。今でも、私は先生の事を想い出す度に感謝の念を新たにしている。

同期会だより

83歳の

同期会を開催

野川義雄（中19回）

昭和17年春、のらくろ漫画で育った少年が秦野中学へ入学し、大平洋戦争とともに過ぎ去った19期同期会は、平塚で初開催、毎年各地、秦野伊勢原、小田原、足柄上下を廻り持ちして二十数回、停年時よ



り楽しい時を過ごしてきましたが、平成24年11月平塚開催地で有終の美を飾ることにしました。純情多感な時を過ごし、友情を育み、その絆をより結びつけてきた同期会は私達の人生にとって珠玉の輝きをもった大事な一刻だったと思います。老驥伏櫪83歳の烈士28人が1人3分のスピーチの枠を超え其々の思いを語り尽くせぬまま、いつの間にか♪努力重ねる行手には、桂の薫る島のあり♪、の校歌の大合唱となり閉会の言葉の深さに一同傾聴し、席を立つものない雰囲気の中、お互いの健康壽命を祈って笑顔で散会した。

母校を訪ねて

柳川三郎（中17回）

私たち中学17期生は、今年の同期会を秦野で開いた。85歳ともなると、体調不良

をうたえる者も多い。継続して同期会に出ている者22名に声をかけたが、参加者は結局12名であった。会場は駅の近くの「一の家」とした。

懇談会終了後、同窓会本部からの祝金1万円のうち6千円を使って、タクシー2台で母校を訪れた。参加者は6名であった。

校舎の配置などはすっかり変わり、昔の俤は完全に消え失せている。それでも変わらないものが一つあった。それはブラタナスである。巨木となつてどっかりと運動場の一角を占めている。

校内の案内は副校長である長谷川正先生にして頂いた。

あり難いことである。途中で出合う生徒達は、嬉しいことに、皆きちんと挨拶をしてくれた。それにも増して感心したのは、校内に展示してあるトロフィーや賞状の多彩なこ

とであった。各種のクラブ活動が活発に行われていることの証であろう。

母校訪問の機会をお与え頂いただけでなく、お忙がしい中をお会い下さった学校長の時乗洋昭先生には、心から感謝申し上げたい。とくに約束の時間より30分も早くお邪魔したのに、快くお迎え頂いたことについては、全く頭の下がる思いであった。

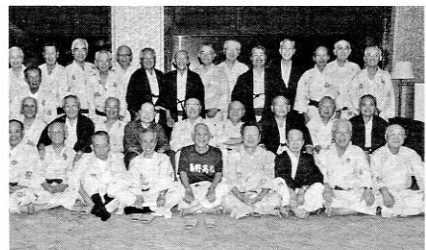
こうして実現した67年ぶりの母校訪問は、母校発展への私たちの思い入れを新にすると共に、私たち相互の仲間意識を強めてくれたように思う。

還暦を迎えた

「広四会」

露木省三（高4回）

高校卒業後60年を経た昨年10月9日、10日、2年ぶりの「広四会」が、秦野地区が幹事役で湯河原温泉「杉菜」で



開催された。

参加者は、37名（案内状発送114通、欠席71名、宛先不明2名、返信無4名）

現在、秦野高校同窓会副会長で今回の幹事役でもある、青木利之さんが母校の今昔を含めた格調高い挨拶が始まり、乾杯は、東北大地震の被災地仙台から遠路参加してくれた上原仁君の音頭で開宴、ソフトな口調の原由夫君の名司会で和氣霽々の雰囲気の中で進

行し、存分に旧交を温めることができた。

締めは、校歌斉唱で一段と盛り上がりを見せ、来年の再会を約して無事閉会した。

なお、幹事役の私(露木)より今後の広四会について「来年は全員が傘寿を迎えるので、各地区(5地区)幹事と相談の結果、広四会での懇親の部は、来年をもって終息したい」旨の報告をし、拍手をもって了承された。また、来年幹事については、最終回となるので各地区の有志が合同で幹事をつとめることとした。

*旅館マネージャーのつぶやき「皆さん、お歳のわりにはお元気で、お酒もずいぶん進みましたね、この年齢層の集いでは珍しいです」

第7回青春かながわ校歌祭に参加して！

校歌祭実行委員長 嶋崎 光

平成18年に始まった校歌祭

に、本校同窓会は揃いのユニフォームで毎回参加してまいります。

7回目の昨年は、11月25日

(日)に神奈川芸術劇場で開催され、当日は同窓会員24人、在校生23人、教員3人の参加で、校歌・第一応援歌・夕陽の3曲を声高々に唱いました。

本年も9月28日(土)に、神奈川県立青少年センター(横浜市西区紅葉ヶ丘)で開催されます。

同窓会事業で、同窓生と在校生が一緒に参加する事業は校歌祭が唯一の事業です。

同窓会の皆さん！

在校生のプラスバンドで、

青春時代にかえって、校歌・応援歌を高唱してみませんか！

また、校歌祭を観覧しに来

てください。
なお、第8回校歌祭の練習につきましても、日程が決定



同期会への祝金

平成24年度贈呈同期会

中17回柳川三郎 (12名参加)

中19回野川義雄 (28名参加)

中20回 井上 薫 (22名参加)

高1回 中21回 平元義孝 (37名参加)

高2回 高4回 露木省三 (37名参加)

高14回 越水 清 (42名参加)

同期会を開催する場合、同窓会から祝金1万円を贈呈。

手続きは左記の役員に実施計画書・実施報告書(A4判1枚)を連絡提出のこと。

●伊勢原市桜台1-36-12 田中信一(事務局)

0463-94-4564

●平塚市明石町28-9

メゾン湘南302

関 恒久(副会長)

090-2930-6961

●秦野市ひばりヶ丘5-23

榎本圭治(支部長)

0463-81-7382

特別寄稿

夏期休暇

貞松 篤（高23回）

この10年ほど毎年夏休みに、車での遠距離一人旅を楽しんでます。

元々山陰、日本海が大好きで、高根鳥取から始まり次第に距離が伸び、ついには牡鹿・

下北半島にまで至りました。

恒例により今年も出かけました。まず夕方新門司よりフェリーにて出港、いつも思うのですが、フェリーの乗客は実に興味深く、まさに社会の縮図を感じます。修学旅行の団体さん、野球遠征の高校生、レストランではトラックドライバーの集団、この中には親分格の人がおり、廻りを若い衆が取り囲みお酌をしています。そしてこの親分？さん、たいていの場合スキンヘッドでひげを伸ばし、半纏を着、

首と手首には金の鎖がジャラツと掛かっています。当然ながらその隣には茶髪のちよつとロリ顔の小ぶりのお姉ちゃんがチョココンと座っています。そうかと思うと、どう見ても夫婦とは見えない、子連れの女性と男性。口数少なげに食事をしています。人生十人十色です。

翌朝、大阪南港に上陸すると、名神・東名高速をひた走り、秦野ICで降り母校訪問、10km走り回った周囲のジャガイモ畑の面影はなく、すっかり住宅地が変わっています。しかしそんな中、母校だけは40年前の佇まいを残し、当時の懐かしい思い出が蘇ります。クラブ活動中の生徒さん達から「こんにちは」と挨拶され、とても清々しく、うれしい気持ちになり、母校の教育水準の高さに誇りさえ感じました。翌日、首都圏を抜けたら極

力一般道を走ります。土地々々の雰囲気・匂いを感じたいからです。目的地は被災地石巻。状況はメディア等で理解はしていたつもりですが、実際現場に立つと想像以上。埃・重油の匂い、見渡す限りの瓦礫の山。寂寥感。ダリの「記憶の固執」と言ったところで、でしょうか。それでも復旧・復興作業が各地で始まっています。石巻ではウニ井の旨い居酒屋に行くのですが、やはり被災しており店は土台のみ、駅前ビルに移転、従業員は全員無事、残念ながら家族には死亡者ありと言った状況。この店の女将は博多モンで、九州弁全開で大騒ぎ、例によって記憶無し。

次は気仙沼。道中三陸海岸の谷間には津波の爪痕が未だに残っています。フカヒレ料理を楽しませて頂いていたのですが、やはり被災。ご主人

は逃げ遅れ、店ごと600m流され、漂着場所では津波火災に遭遇、しかし運良く脱出。いち早く一関市に移転、再開業されていました。東北の方たちの、復興に対する思い・熱意・行動力には感服します。逆にこちらが励まされ、元氣付けられると言うのは、本当のことです。このご主人はNHKハイヴィジョンスペシャ

ルで、当時の模様を語っておられました。

次は新潟・金沢。夏の金沢は何と言っても岩牡蠣。「ウニをミルクで包んだ」の例えそのまま。行きつけの店の女将、30歳位の美形で密かに思いを寄せていたのですが、私もよく知る常連客と駆け落ちしていたのには、啞然。

一人旅もこの辺になると、特に夕暮れ時にわびしい気持ちになります。後はひたすら自宅へ。以上1週間で3千5

百km。運転以外は食って・呑んでるって感じですが、正にその通りです。年に一回の楽しみで、一人で勝手に絆作りと考えています。

今回、我が恩師、青木先生より寄稿を命ぜられ、大変光栄な事と感じ、また青木先生、土屋先生たちの懐かしい授業風景を思い出しました。思えば高校時代、人生の中で一種独特の時期です、ずいぶん無茶もしました。そんな思いで起稿したため、「広陵」に相応しくない、浮いた文章になりました。諸先輩方には此れそうですが、ご容赦下さい。最後に、遠い佐賀の地より秦野高校の益々の繁栄を、折っています。

*長崎大学医学部卒

医学博士

独立行政法人国立病院機構

東佐賀病院・院長

神奈川県立秦野高等学校同窓会委員会の組織

平成24年10月現在

会 長 畑野公保(高7)	
副会長 総務担当 苅籠光男(高16) 石田邦雄(高7)	総務委員会 委員長 宮永浩年(高3) 委員 渡邊周治(高23) 能條 剛(高17) 久保寺富男(高11) 田中信一(高18) 高梨 剛(高34) 瀬戸紀彰(高44) 亀井ゆう子(高57) 木村菜花(高57) 木村輝夫(高24) 高田万友美(校内) 名簿管理委員会 委員長 小泉広澄(高17) 委員 奥津光弘(中20) 山口隅造(高9) 山口輝久(高13) 山田圭二(高50) 笠原将昌(高35) 山田 梓(高59) 資料委員会 委員長 櫛田和幸(高18) 委員 大澤秀男(高14) 村上広敏(高22) 梶山友吉(高23) 山岸保則(高58) 三橋弘明(高59) 小島裕貴(高63) 井上裕大(高64)
副会長 広報担当 青木利之(高4) 大庭 進(高7)	会報委員会 委員長 青木利之(高4) 委員 榎本圭治(高2) 小林 充(高5) 小泉広澄(高17) 能條 剛(高17) 北村 卓(高20) 山口知英(高33) ホームページ委員会 委員長 山口輝久(高13) 委員 山口隅造(高9) 笠原将昌(高35) 山田圭二(高50) 山田 梓(高59)
副会長 事業担当 関 恒久(高19) 長沢孝治(高13)	親睦事業委員会 委員長 関 恒久(高19) 委員 関口俊郎(高7) 半澤文字(高8) 原 正一(高11) 相原省三(高11) 石井一男(高17) 八木佳輔留(高30) 藤波 香(高58) 岩田仁美(高62) 佐藤拓馬(高63) 母校支援事業委員会 委員長 越水 清(高14) 委員 鈴木栄一(高2) 内藤 優(高6) 相原 彰(高15) 佐野友保(高18) 鈴木盛敏(高43) 栢沼 猛(高58) 校歌実行委員会 委員長 嶋崎 光(高19) 委員 船津 猛(高2) 相原宏道(高9) 北村紀男(高11) 福田三郎(高13) 飯田重明(高16) 大木伸男(高16) 烏海増雄(高16) 上野耕平(高17) 吉田信男(高17) 鈴木峰雄(高18) 出縄高昭(高19) 静 裕司(高19) 重田 博(高25) 志村 功(高26) 諸星一政(高27) 平田真一(高28) 石井 圭(高64)

平成24年度 部活動の記録 (県大会以上)

部活動名	大会名	結果	部活動名	大会名	結果		
野 球 部	県選手権大会	2 回戦	硬式テニス部 (男子)	関東大会県予選	男子個人 ベスト64		
サッカー部	関東大会県二次予選	1 回戦	県高等学校 新人テニス大会	県高等学校	男子シングルス出場		
	高校総体兼一次予選	2 回戦		男子ダブルス	出場		
陸上競技部	全国高校サッカー選手権 神奈川県大会一次予選	3 回戦	硬式テニス部 (女子)	県高等学校 テニス大会	女子シングルス ベスト32		
	全国高校総体	女子3000m 12位			女子シングルス ベスト32		
	東日本女子駅伝	3区(5,087m) 3位			女子シングルス ベスト32		
	関東高校駅伝	女子 16位			女子ダブルス ベスト16		
	関東高校総体	男子5000m 12位 女子3000m 6位			女子団体 ベスト4		
	関東高校選抜新人 陸上	男子3000mSC 11位 女子1500m 3位			女子ダブルス ベスト16		
	高校総体県予選	男子1500m 7位	県高等学校 新人テニス大会	女子ダブルス ベスト16			
		男子5000m 5位		女子団体 ベスト64			
	県選手権	女子800m 8位	ハンドボール部 (男子)	女子ダブルス ベスト16			
		女子1500m 9位		女子ダブルス ベスト16			
	県高校新人陸上	女子3000m 5位	ハンドボール部 (女子)	女子団体 ベスト64			
		女子1500m 8位		男子 1 回戦			
	県高校駅伝	女子3000m 8位	ハンドボール部 (女子)	全国総体ハンドボール県予選	男子 2 回戦		
		女子 2 位		県新人大会	男子 3 回戦		
バスケット ボール部 (男子)	関東高校 バスケットボール	男子 1 回戦	山 岳 部	関東高校ハンドボール県予選	男子 1 回戦		
	関東大会県予選	男子 2 位		全国総体ハンドボール県予選	男子 2 回戦		
	全国高校総体県予選	男子 準決勝		県選手権大会	男子 1 回戦		
	新人戦県大会	男子 ベスト32		関東高校ハンドボール県予選	女子 1 回戦		
バスケット ボール部 (女子)	新人戦県大会	女子 ベスト8	弓 道 部	全国総体ハンドボール県予選	女子 1 回戦		
		女子 準決勝		県新人大会	女子 1 回戦		
バトミントン部	高校総体県予選	男子シングルス 1 回戦	山 岳 部	県選手権大会	女子 1 回戦		
	関東大会県予選	男子 ベスト32		関東大会県予選	男子個人 4 回戦		
バレーボール部 (男子)	高校総体県予選	男子 1 回戦	山 岳 部	全国総体県予選	女子個人 5 位		
	新人戦県大会	男子 1 回戦		全国総体県予選	女子個人 5 位		
バレーボール部 (女子)	関東大会県予選	女子 ベスト32	山 岳 部	全国総体県予選	女子個人 5 位		
	高校総体県予選	女子 ベスト32		全国総体県予選	女子個人 5 位		
バレーボール部 (女子)	選手権大会	女子 ベスト32	山 岳 部	全国総体県予選	女子個人 5 位		
	新人戦県大会	女子 ベスト16		全国総体県予選	女子個人 5 位		
チア リーディング部	USA JAPAN 神奈川大会	チアリーディング 出場	剣 道 部	関東大会県予選	男子団体 4 回戦		
	USA2012神奈川大会	チアリーディング 出場		全国大会県予選	女子団体 4 回戦		
	USA 2013全国大会	ノービスクラス 2 位			男子個人 6 回戦		
ソフトテニス部 (男子)	関東高校選抜大会	男子団体 出場	柔 道 部		新人戦県大会	女子個人 4 回戦	
	関東大会県予選	男子団体 ベスト16		国民体育大会県予選	女子個人 4 回戦		
	全国高校総体県予選	男子団体 4 位			女子個人 4 回戦		
	県新人大会	男子個人 3 位 男子団体 優勝			男子団体 3 回戦		
ソフトテニス部 (女子)	関東大会県予選	女子個人 ベスト32	茶 道 部		県選手権大会予選	女子団体 2 回戦	
		女子個人 ベスト32		合 唱 部	県器楽管弦演奏会	出場	
		女子団体 ベスト16			茶 道 部	第79回NHK全国学校音楽 コンクール神奈川県コンクール	奨励賞
		女子個人 ベスト32				美 術 部	高校生集會
女子団体 ベスト16	か る た 部	全国かるた競技学生選手権	E 組 3 位				
女子個人 ベスト32		美 術 部	全国かるた競技大会	E 組 4 位			
女子団体 ベスト16			美 術 部	小倉百人一首かるた選手権 兼全国大会県予選大会	1 回戦		
女子個人 ベスト32				美 術 部	県高等学校かるた大会	B クラス 3 位	
女子団体 ベスト16	美 術 部				団体対抗かるた大会	E リーグ 3 位	
女子個人 ベスト32		美 術 部			第59回県高等学校美術展	出展	
女子団体 ベスト16			美 術 部		全国高等学校校版選手権	出展	

平成24年度 全国大会派遣 支援活動報告

全国大会派遣支援会

実行委員会会長 越水 清

平成24年度の全国大会に出場する母校在校生への支援金を募りましたところ、延べ90人と2同期会有志の同窓会員から御芳志を賜りました。厚くお礼を申し上げます。

24年度は、全国高校総合体育大会陸上競技と、スリランカ遠征野球大会の神奈川県代表、全国女子駅伝代表の出場選手各1人と、全国チアリーディング大会に出場した在校生に支援金を援助いたしました。

今後とも、よろしく御支援の程、お願い申し上げます。
24年度の会計報告及び支援金協力者は、下記のとおりです。

会計報告

収 入
支 出
残 金 (繰越金)
1、 1、
3 2、 6
3 9、 3
5、 0、
0 9、 9
2 2、 3
7 1、 7
2 2、 5
7 5、 7
円 円 円

平成24年度全国大会支援者(振込者)

中12 梅原福司 高3 今井 研 高17 吉田信男 高63 森田雄大
中12 齊藤俊三 高4 柳川幸市 高17 和田厚行 高63 山崎飛鳥
中12 濱田勝彌 高5 栗原重雄 高19 関 恒久 匿名4名
中13 加藤好男 高6 杉山 昇 高20 宮本知信
中14 鈴木 栄 高6 内藤正徳 高20 山田信雄
中14 西山 勲 高8 能澤康正 高21 北村賢一
中15 高橋 繁 高9 府川道明 高22 加藤和廣
中15 長嶋喜一 高10 大塚忠雄 高24 北村輝夫
中17 小林好雄 高10 久保寺健夫 高25 堀尾眞弘
中17 松本悦雄 高11 鵜飼 武 高26 小林善信
中17 柳川三郎 高11 松本榮次 高29 島海 晃
中17 有志一同 高12 多田孝文 高29 山口 修
中20 辻村 保 高13 佐々木洋之 高31 那須政司
中20 中野和雄 高13 古谷嘉久 高31 荻谷日出男
中20 中原 仁悟 高13 増田那好 高33 会田智子
併1 清水忠造 高14 有志一同 高37 大井啓太郎
併1 山田昭八 高15 赤坂勝巳 高47 森田基樹
◎遺族賀美子壘 高16 加藤昭廣 高51 小室直樹
高1 長谷川遠朗 高16 灯籠光男 高52 中村耕作
高1 矢野恒雄 高17 石井一男 高56 及川直樹
高2 石井淳一 高17 太田耕作 高59 古宮久美子
高3 相原繁久 高17 能條 剛 高63 雨宮みずき

訂正
前号×中19 廣
澤富正 ○中
9 廣澤富正

収入の部

(単位/円)

項目	金額	備考
繰越金	1,007,702	
預金利息	235	4/1 103円 10/1 132円
23年度支援金振込額	623,000	92件(2度振込者あり)
合計	1,630,937	

支出の部

項目	金額	備考
振込用紙印刷代	21,200	24年度分10,100円 25年度分11,100円
振込手数料	10,080	120円×74人=8,880円、80円×15人=1,200円
通信運搬費	2,250	切手代
消耗品費	785	C D代、祝儀袋代
手数料	600	振込残額証明書、受払通知書再発行代
印刷製本費	1,000	23年度礼状コピー代
支援金	260,000	下記内訳参照
合計	295,915	

*支出の部(全国大会支援金内訳)

部活名	金額	備考
陸上競技部	20,000	全国高校総体新潟県大会
野球部	20,000	日本・スリランカ国交樹立60周年記念野球親善試合
陸上競技部	20,000	全国都道府県女子駅伝大会
チアリーディング部	200,000	チアリーディング全国大会(千葉市幕張メッセ)
合計	260,000	

全国大会派遣にあたり、多大なるご支援いただきましたこと厚く御礼申し上げます。引き続きまして、本年度もより多くの会員の皆様のご協力、ご支援を何卒お願い申し上げます。

寸描 母校2012年度 —平成24年度の進路状況と 今後の取り組み—

キャリア教育支援グループ 小倉正廣

平成24年度卒業生358名の進路状況を中心に報告します。4年制大学への進学者289名(前年比21名増)、短期大学への進学者8名(同4名減)、専門学校への進学者12名(同10名減)、就職者6名(同5名増)、進学準備者43名(同11名減)となっています。全体的な特徴としては、ま

ず例年ほとんどいかなかった就職者が6名と多かつたことがあげられます。また、例年60名前後いる進学準備者が43名と、大きく減少しました。これらは長く続いた不況の影響が反映された結果とも考えられます。

主な大学・短大の合格者数は別表のとおりです。全国的に資格取得志向が強まったことなどから、理科系人気となり、本校生徒も苦戦を強いられました。また、本校の国立大学の合格者数(現役)は前年度の20名から15名へと減少しました。これはセンター試験で思うように得点できなかった生徒が多く、このことが最後まで影響を及ぼすことになりました。

次に指定校推薦についてですが、本校では生徒が安易に指定校推薦に流されることなく、自分が本当に行きたい大学に一般入試でチャレンジしよう、と呼びかけてきました。例年80名前後いる指定校推薦の進学者が、今回は68名。

この結果、私立の合格者数が前年の578名から726名と大幅に増加しました。ただ、その内訳は、いわゆるGMARCH(*)は129名と微増したものの(前年比2名増)、早慶上理は前年を下回り(同9名減)、国公立も前述のように前年を下回る結果となりました。レベルアップが今年の大きな課題です。

また、これまで通り「キャリア教育プログラム」にもとづいて、高校の3年間を通じて生徒が自分自身を理解し、さまざまな情報を集め、将来設計を考えることができるよう生徒を育成していきたいと考えています。これらの点と進学実績向上が本校の教育活動全般を通じてうまくリンクすることによって、生徒一人ひとりの将来が実りあるものになるようサポートしていきたいと考えています。

本校は、今年度から「学力向上進学重点校Ver.Ⅱ」に取り組んでいます。その1つの目標である「進学実績の向上」のため、具体的な数値目標を掲げました。

*GMARCHとは

学習院・明治・青山・立教・中央・法政のこと。

2012年度(平成24年度)卒業生の大学・短大進路状況

	合格者	入学者	入学者内訳			
			一般入試	指定校推薦	公募制推薦	AO自己推薦
国公立大学	15	12	9	2	1	0
私立大学	726	277	198	60	9	10
短期大学	12	8	1	6	0	1
専門学校	12	12	—	—	—	—
就職	6	—	—	—	—	—

2012年度 主な大学・短大合格者延べ数

大学名	現	卒	大学名	現	卒	大学名	現	卒
国公立大学			北 里 大	14	2	東 京 薬 科 大	9	
北 海 道 大		1	共 立 女 子 大	5		東 京 理 科 大	1	4
茨 城 大	2		杏 林 大	2		同 志 社 大	2	1
埼 玉 大	1	1	慶 應 義 塾 大		3	東 洋 大	27	5
東京医科歯科大		1	工 学 院 大	12	4	独 協 大	1	
横 浜 国 立 大	1	1	國 学 院 大	4		日 本 女 子 大	3	4
静 岡 大	2	1	国 際 医 療 福 祉 大	5		日 本 体 育 大	4	
信 州 大	1		国 士 館 大	7		日 本 大	29	7
名 古 屋 大		1	駒 澤 大	20	1	フエリス女学院大	6	
京 都 大		1	実 践 女 子 大	4		法 政 大	36	12
京都工芸繊維大		1	芝 浦 工 業 大	2	1	明 治 学 院 大	29	3
首都大学東京	3		上 智 大	6	1	明 治 大	17	5
横 浜 市 立 大	4		昭 和 女 子 大	6		立 教 大	14	5
県立保健福祉大	1		昭 和 薬 科 大	5		立 命 館 大	2	1
			成 蹊 大	6	1	早 稲 田 大	9	3
			成 城 大	8	3			
			専 修 大	50	2	私立短大		
青 山 学 院 大	17	5	玉 川 大	20		鎌 倉 女 子 短 大	1	
大 妻 女 子 大	4		中 央 大	40	9	実 践 女 子 短 大	1	
桜 美 林 大	21	1	帝 京 大	8	1	湘 北 短 大	2	
学 習 院 大	5	3	東 海 大	46	7	東海大学医療技術短大	2	
神 奈 川 工 科 大	16	2	東 京 電 機 大	7		東 京 家 政 大 短 大	1	
神 奈 川 大	36	2	東 京 家 政 大	3	1	東 京 農 大 短 大	1	
鎌 倉 女 子 大	6		東 京 都 市 大	31	9	日 本 大 短 大	1	
関 東 学 院 大	16		東 京 農 業 大	8	3			
関 西 学 院 大	1							

叙 勲

おめでとうございます。

(敬称略)

瑞宝小綬章

安藤 彬(本校23代校長)

(元公立高等専修学校長)

春の異動

次の先生方が転退職されました。長い間、ありがとうございました。(敬称略)

【退職】

河野 忠磨 上田 敏和

鈴木 登 三沢 博

小林 徹 石塚 一光

高野 護 小澤 芳雄

【転任】

吉野 久美(平塚農業)

近藤 幹雄(茅ヶ崎)

福永 隆幸(伊勢原定時)

河内 美香(厚木西)

中西 昭雄(小田原)

平成24年度に贈られた卒業生寄贈品

絵画

●奥村 晃生(昭夫)

第34回主体展佳作

「DNAドグマ」

●御代(岡村) 泰成

(高6)

「春は曙、秋は夕暮れ」

物故者

慎んでお悔やみ申し上げます。

【職員】(敬称略)

北村 輝夫(高24)

【旧職員】(敬称略)

高木 博 相田 盛二

岸 宇之助 古屋 一男

角田新之助 (中5)

【会員】(敬称略)

中3城所武夫 中13大島和美

中5西野茂次 中13鷺尾 隆

中9藤澤清治 中14飯田宣雄

中10佐野元嗣 中19酒井孝祐



原稿を

お寄せください

同期会、クラス会などよりなどの原稿を700字以内でお寄せください。また、個人の近況など、短くても結構です。

送付先 秦野高等学校同窓会 担当宛

編集後記

オレオレ詐欺に

御用心!

最近、秦野高校の同窓会名簿が悪用されたと思われる「オレオレ詐欺事件」が、発生しています。卒業生の家族の方が被害にあったと新聞報道さ

れました。お年寄りが一人になる場合は、電話を留守番にしたりして、予防策を講じて被害にあわないように気をつけましょう。

●平成元年から25年にわたって表紙スケッチを飾っていただいた横溝先生に感謝!

●総会の時期の変更(P18)により、総会前の発行を試みた

たが、右往左往の始末。少しでも支出の軽減になることを狙って、「広陵」43号より「広告」を掲載しようと企画検討をしている。(青木)

秦野高等学校同窓会

会報委員会

〒257-0004 秦野市下大槻一三番地 県立秦野高等学校内
ホームページアドレス 振替口座 00120181226889
<http://www.koryokainfo/>

発行責任者

畑野公保(高7) 榎本圭治(高2)

青木利之(高4) 小林 充(高5)

小泉広澄(高17) 能條 剛(高17)

北村 卓(高20) 山口知英(高33)

原則として、平成26年度より秦高同窓会総会を6月の最終日曜日に行うことに、役員会(3月30日)で決定しました。